

太平洋食堂

The pacific refreshment room

作・嶽本 あゆ美

*お断り

本稿には差別的表現が出てきますが、著者の意図は決して差別を指すものではなく、その差別構造の矛盾をテーマとしたものです。作品の文学性、芸術性の上から表現の言い換えを行わず、そのままとしました。

一幕・登場人物（フィクションを含む為、モデルになった人物を変名しています）

大星 誠之助

和歌山県新宮の医者、四十歳前後

西山 伊作

誠之助の甥（西山耶平の息子） 二十代前半 大学生

大星 忍

誠之助の妻 二十代後半

沖田 三郎

新宮教会の牧師 二十代後半 明治学院大を出て、新宮に牧師として赴任する。大逆事件の新宮関係者で唯一の戦後までの生き残り

高萩 懸命

浄土真宗大谷派・浄泉寺の住職 四十代 住職が夜逃げした浄泉寺を引き受ける。

森 西安 牟婁タイムズの編集長・社長 四十代後半 リベラリスト

幸徳 秋水（秋水） 社会主義者 三十代後半

議長 新宮町町会議長 春田 五十代

署長 新宮町警察署長 金田 五十代後半

成田誠四郎 本宮の青年 二十代前半 法律を学ぶが筏師として社会主義運動に投

ずる。

セイ六 被差別部落の青年 浄泉寺の門徒、二十代前半

タミ セイ六の妻 二十前半

さわ 大星家の家政婦 五十代

西山耶平 伊作の死んだ父親 クリスチャン

女 被差別部落の老女 浄泉寺の門徒

住職 元浄泉寺の老獺な住職

高僧 真宗の高位の僧

魚売り・マッチ売りの少女・新聞配達・号外売り・乞食1、2・裁判官・ののしる人々・青年団

第一幕・第一場・明治三十七年秋・新宮

早朝、カモメの鳴き声、海が近い町の通り。「大星どくとる」と書かれた医院、待合室と思われる土間にテラスのある建物。その前の路を熊野詣の巡礼が杖の鈴を鳴らしながら通り過ぎる。魚の振り売りの女衆の声が響く。

女衆　　タイ、タイーお買いなはりまし。シビ、シビーお買いなはりまし、サイレ、サイレー、お買

いなはりましー

舞台の枠外から、トランクを携えた沖田三郎が現れる。帽子に黒いインバネス。どこか垢ぬけなきが目立つ若い学生という風貌。若干、はしゃいでいる。

沖田　　……懐かしいな、まさか、もう一度ここに来られるとは思わなかったなあ……ほら、ご覧な

さい。熊野川、お城の石垣、神倉かみくらさんに、ボツツリ山。あ、ボツツリっていうのはですね、あの山の上から、熊野灘の沖に向かって灯す大きな提灯ちようちんの事。燈台みたいなものですね。この新宮という町、僕にとっては忘れられない思い出ばかりで・今日は懐かしい友人の顔を見に来ました。事情が有りまして堂々とは行かれませんが……実は昔、この町には教会の牧師として都合八年ほど居りました。それから、或る事件が起こり、町を離れる事になり……最初を訪れたのは学生の頃、伝道でんどうの旅でした。そう、丁度日露戦争の頃で、ほら、あんなふうに新聞社が二つあった。

二人の新聞配達夫がそれぞれの社名「熊野実業新聞」「熊野新報」の入ったタスキを掛け、徒競争のように走って来る。

沖田　　おい！新聞屋！一つくれ。

新聞屋二人　　へい！おおきに

沖田　　……熊野実業に熊野新報、ライバル紙です。現代で言えば、産経と朝日ってとこかな………ありがとう。(と、代価を払った沖田、ちよつと読む)

どれ……沙河しかの会戦に勝利、どちらもこのニュースでもちきりだ。野津司令官のづ、第四軍の猛攻によりクロパトキン退却、勝利、勝利……ははあ、所謂いわゆる、坂の上に雲があった時代、ちなみに、まだ旅順要塞は落ちていないようですね。良かったーちゃんと時間を遡さかのぼって来られました。ひとまずここから始めよう。……皆さん、告白致しますと実は僕は既に……

と、そこへ医院の影から自転車が出てくる。「平民文庫」という旗をとりつけた自転車に乗った西山伊作いさくは、勢い余って沖田にぶつかる。

沖田 うわっ……

伊作 済みません！大丈夫ですか！

沖田 気を付けたまへ！危なく引き殺されるかと……（まじまじと伊作の顔を見る）

伊作 あの、どこか…打ちましたか？

沖田 いや、大丈夫……その…確かこの辺りに、大星という医者がありましたよね？

伊作 医者、やはりどこかお怪我を？

沖田 いえ、違います。

伊作 ご安心ください。そこに叔父の医院が。すぐに呼びましょう。叔父さん！怪我人です！

伊作の呼び声とは無関係に、医院の入口から出てきた大星誠之助は「本日休診」の張り紙を見ると、「太平洋食堂 The pacific refreshment room」という看板を建てかける。誠之助はアメリカナイズされた洋装にエプロン。伸ばした髭が彼の相貌に外人臭を漂わせている。

沖田 本日休診？

伊作 ええ。今日から洋食屋をするんです。その名も太平洋食堂

沖田 太平洋食堂……

伊作 叔父さん！ちよつと！

誠之助 何だ伊作！！

伊作 こちらと自転車でぶつかってしまつて。

沖田 大丈夫ですつたら！！ちよつと待って……（隠れるように）

誠之助 じゃあ、ちよつと立ってみて。

沖田、立ちあがる。

誠之助 次はクルッと回って、ケンケンパ……

沖田、その通りにする

誠之助 ノー・プロブレム。わしゃ忙しいんじやわ。

誠之助、戸口へ消える。

沖田 ドクトル……ドクトル！！

伊作 あなた、叔父をご存じで??

沖田 いえ、あのその……噂でアメリカ帰りのドクトルがいると。それより……そうだ、この町の教会は今、どんなです?

伊作 教会!あなた、ひよっとして新しい牧師さん?

沖田 それが……まだ見習いです。今日は伝道活動に。

伊作 是非一つ、説教を!!前の牧師さんが他へ御移りになってしまってから、この町は墮落の一端を辿っています。

沖田 それはいけませんね。何でまた?

伊作 戦争、戦争のお陰で景気がいいんです。この町には熊野の山奥で切り出された材木が集まる。炭鉱もすこぶるつきであちこちから人が集まっています。こうなると実業家どもの笑いが止まらない。御覧なさい、あらゆる欲望が渦巻いていますよ。

沖田 となると七つどころか、大罪がわんさか?

伊作 そう、傲慢、強欲、暴食、色欲、

沖田 怠惰、憤怒に嫉妬……あの……沖田、と申します。沖田三郎、横浜から来ました。よろしく。

伊作 西山伊作です。

沖田 あの西山君、よかったら町を案内して……

伊作 いけない!……

伊作、落ちてしまった「平民文庫」のノボリを立て直す。

沖田 「平民文庫」……

伊作 ご存知ですか?僕もこれからこいつの伝道です。

沖田 ……君はもう……いわゆる主義者?

伊作 いえいえ、これは叔父の趣味。僕にとっちゃ、主義たるは及ばざるが如し!失礼、急ぎますので。昼には戻ります!

伊作、「平民文庫」の旗をたなびかせ自転車で走り去る。

沖田 気をつけて!西山君!……さつき云いかけた事ですが、実は僕、もうまもなく神に召される所なのです。この明治でも、皆さんの今でもない時間、昭和31年の死の瞬間、僕はようやく「この町」を訪う旅を許されました。もちろん、これは特別な計らいなんです。……今

から約百年前、日本である大きな事件が起こり、この町の友人が大勢殺された。その時、何故かたった一人生き残ってしまいました……その僕が一生、心を残したこの町とあのドクトルに、どうしても聞きたい事がありまして。何しろ彼が死んだ時には誰も立ち会えなかった。それが心残りでも僕も死に切れないのです。しかし、とうとう夢が叶いました……が、心の準備があるもんだな……あ、和尚だ！

食堂の前の筋を浄泉寺の住職・高萩懸命が念仏を唱えながら歩いて来る。着古した僧衣、貧乏寺の住職を絵に描いたよう。反対からは号外売りが「号外！号外！ロシア軍、遼陽より撤退」と叫びながら鈴を鳴らしてやってくる。食堂の前で出くわした号外売りと懸命。二人は同じ方向にばかり足を踏み出し、路を譲らない。その小競り合いを誠之助が見ている。やがて懸命から逃れて立ち去る号外売り。

誠之助 やあ和尚！ 見事なステップだったな。

懸命 このドクトルめ……笑うてたな？

誠之助 ああ、笑うて悪いかね？

懸命 ご挨拶じゃの。

誠之助 毎朝、「おはよ」と言うたところで毒にも薬にもならん。それより和尚、あれを読んだか？

懸命 号外なんぞ見たくもない。

誠之助 それじゃない。あれじゃ、あれ！

懸命 うるさい！毎日、勝った負けた何人殺したと野蛮な……いや、まさか旅順でも？

誠之助 まだ落ちとらん、落ちるわけがない。ほれこつち、「明星」あんた好きじゃろ？

懸命 う、明星！

誠之助 9月号に晶子女史が「おとうとよ」を発表した。絶賛物だ。

誠之助、明星を手渡す。

懸命 ……なんで又、わしに？

誠之助 与謝野晶子が好きなんじゃろ？

懸命 しっ！そんな大きな声で……

誠之助 檀家の者が言うのとつたぞ。あの石頭の浄泉寺は、実は詩詠みじゃと……なかなか隅におけん。

懸命 うるさい！（と言いながら、雑誌をめくる）

誠之助 「君死に給う事なかれ」……凄い迫真の文章だ。猫も杓子も戦争戦争と騒いどる所に一発喰らわしてくれたな。

懸命 「人を殺せと教えしや……すめらみことは」……これを、あの明星歌人が……

誠之助 そうじゃ。なあおい、わしらもこうしてはおれん。
懸命 わしら？徒党を組んだ覚えは無いが。

誠之助 まあそう言うな。わしと伊作、それとあなたの自称・平和主義者で、反戦平和の狼煙のろしをこの町に上げたるんじゃ。わしらもやりきったらなあかん！

懸命 して、何を？

誠之助 この食堂、その名も太平洋食堂、太平なる海に平和の灯し火を、全世界に向けて照らし、貧しき者も富める者も万民が共に食卓を囲む……

懸命 ……万民が……（ふと幻惑される）

誠之助 開店記念にこの町のあらゆる者を客に招いた。あなたとこもな。

懸命 ……うち？（驚愕する）浄泉寺の？まさか…まさかうちの檀家を？

誠之助 何じゃその顔？

懸命 あんたの考えとることが分からん！新平民じゃ言うて笑う気か？

誠之助 平民も新の字も構うもんか、この日本は四民平等じゃと大きな顔をしとればいい。和尚こそ分からん。

懸命 わしは騙されん！西洋料理なんぞ食わせて、檀家に何を吹き込む？

誠之助 万民平等、自由博愛。それと合理的な健康法。

懸命 口では何とでも……金持ちの道楽に付き合う暇はない。ドクトルなら「毒取る」らしく体の毒でもとつとけ！

誠之助 そうかつかするな。和尚も昼に来いよ！

懸命 うるさい！

懸命は明星を抱えたまま、南無阿弥陀仏を唱えながら去っていく。笑って見送る

誠之助。半纏はんてんぎ着の若衆わかいし・成田誠四郎が幸徳を介抱しながら現れる。

成田 ドクトルー！ドクトルんこの客が、あつこの河原で行き倒れとつたじえ。

誠之助 ああ、成田。済まん済まん。迷惑掛けたな。先生、先生、しっかり！

成田 あやうくドザエ門じゃあ。川、泳いで渡ったんじゃろ。どこぞで遊んだ帰りか？
誠之助 そこらでいらんこと言うなよ。おーい！

タスキ掛けに白いエプロンの妻のゑいが、奥から出てくる。

ゑい はい！あなた！どうなさいました？

誠之助 おゑい！すぐ風呂を沸かせ。この酔っぱらいを放り込んでやれ。

ゑい まあ、先生、ひどい格好。婆や！婆や！お願い！

さわ 　　はい奥様…あんれまあ、言わんこつちやない！どこのドブネズミかね？

誠之助 　　これでも平民社の大先生だ。丁重にな。

ゑい 　　そつちを持つて。よいしょ……（と幸徳を引っ張り込む。）

誠之助 　　頼んだぞ！おい成田、昼に必ず来いよ。

成田 　　今日？今日の昼、何ぞあったかの？

誠之助 　　河原の船頭の代表として、開店祝いに……

成田 　　おおきに！生憎、野暮用があつてのう……♪猫じゃく猫じゃとおっしゃいますが。

誠之助 　　そうか、残念じゃ……

成田、「猫じゃ猫じゃ」を歌いながら去る。誠之助と沖田、目があう。

誠之助 　　……（と沖田を見とがめる）警察か？

沖田 　　いえ！……あの…お早うございます……あ、挨拶は嫌いでしたね。…明治学院で神学と英語を学んでいます。今日は布教活動でこの町に。

誠之助 　　牧師の卵か！ようこそわが町へ。この食堂は誰にでも開かれています。エブリイバディ、エ

沖田 　　ニイタイム、ウェルカム！……よかつたらしばらく泊つても……

誠之助 　　残念ですね、僕は今日しかここに居られないのです。……あなたは、何故今……その、これを始めたんです？

誠之助 　　理由を聞いたるのかね？

沖田 　　そう、そうです。医者が食堂を始めるとは……

誠之助 　　この社会の病を直すには、まず人の口に入るものから変える。こうして西洋料理の店を開き、食べ方、レシピから合理的な食生活や衛生を教育し、それによつて迷信を無くし万民平等の……

ゑいが顔を出す。

ゑい 　　あなた！あなた！オーブンが！オーブンが火を！

誠之助 　　いかん！今行く！……よろしければ、昼飯をどうぞ！

誠之助、ゑい、去る。

沖田 　　では後ほど……太平洋食堂、ここに集つどつた者達は皆、大いなる宿命に飲み込まれてしまします。子孫孫、現代まで続く終わりなき闇夜……それを何故、止められなかったのか、一生の後悔が、私をこの町に立ち還らせてくれました。…ですが、神の御名において、何かを変

えることは許されておりません。……そろそろ僕も、この時代に沿わねばなりません。そしてあなた方の時代から百年前の日本で起きた過ちを、こうして今、お目にかけるのです。太平洋食堂へようこそ！

転換・音楽